

---

# A子とB子の会話 そして

鳴衣津々

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

A子とB子の会話 そして

### 【コード】

N3306I

### 【作者名】

鳴衣津々

### 【あらすじ】

極普通に居る女の子が日常にありそうな、でも現実では口に出さないような会話をただしている感じの内容です。

## (前書き)

はじめまして。小説というよりただの文章ですが投稿してみました。  
正直自分で書いてて胸糞悪かったです。なので読んだ方、同じように  
気分悪くされてしまったら申し訳ありません。

A子「えー！やだまじ!？」

B子「わあびつくりした。どうしたのいきなり」

A子「いや、今さあ、ネットの記事見てただけ  
俳優の 事故で死んじゃったんだってー」

B子「え」

A子「昨日ドラマ普通に出てたのにね

嘘みたい・・・あ、なんか事故の現場に  
いた人が細かく状況を話してるっぽい」

「・・・うげえキモ、見るんじゃなかった。  
もうすぐご飯なのに・・・」

なんかさあ、車に3度はねられて顔とか  
グツチャグチャになってたらしいよー

イケメンなのにー  
やばい涙でてきそう  
ちようシヨkker・・・」

B子「・・・ さんって、舞台の脚本書いてたり  
半年後に外国のドラマに出る予定だったり

傍らで親御さんの介護とかボランティアとか  
色々やってたんだって」

A子「ふーんそうなんだ」

B子「・・・あのさあ、ひとつ聞いていい？」

A子「なに？」

B子「何で笑ってんの？」

A子「は？なに？」

B子「だから、何で笑ってんの？」

A子「なんなの喧嘩越していきなり。笑ってなんかないじゃん。  
意味わかんないし」

B子「テレビで見た分シヨックになるのは分かるけど  
あなたの悲しみ方はちょっと違うんだよ。  
心から思っていないんだよ」

A子「そりゃそうだよ。だって身内でも友達でも

なんでもない、ただの他人じゃん。

あんだだつて見ず知らずの他人の不幸、心から  
悲しめないでしょ？ 　　の事だつてあんたも・・・」

B子「好きだよ。だから『ちようシヨツクー』とか言えない。

それに見ず知らずの他人や友達的不幸を

あんたみたいに

ブログのネタなんかになんて絶対しない」

A子「は？ブログ？」

B子「・・・ああ、やっぱり忘れてるんだ。

思い出せないんだ。」

A子「ブログ書いてるけど、あんたが

何を言いたいのか

全然わかんないし。なんなの？」

B子「C子」

B子「二年前にさ、一緒につるんでたC子がさ  
事故で亡くなったじゃん。

その時まだお葬式も済んでなかったのにさ

ああ、訃報聞いてすぐくらいだよな

あんた早速ブログにC子の事書いてたじゃん。」

B子「覚えてるよ。あんたが書いた文章。

タイトルが『うええ〜ん』でさ

『友達のC子が死んじゃった〜悲しいよ』

とかいう内容でさ、

語尾に悲しんでる顔文字とか

付いてて」

B子「日記のシメが『明日借りてたCD返さない』と

延滞金ついちゃうよ〜』だったよね？」

B子「ああ、でももう忘れてるみたいだし

なに言っても無駄か。

悲しんでる私偉いでしょみたいな

空気をね、あんたから」

A子「だからなに？」

A子「書いたよ？ブログに。

だから？文句ある？

書いちゃダメっていうルールなんて

あるの？

ブログ読んで気分悪くなるんだったら

最初っから読まないでいいし。

こつちが迷惑」

A子「それに」

A子「C子の事、別に大事な友達とか

思ってたなかったし。

ただ一緒にいるくらいの程度だったし」

A子「もともと目立たない地味な子だったから

私が話題に出してむしろ喜んでるんじゃないのー？」

「

A子「あ、私いいことしたんじゃない！」

世の中にC子っていう地味な子がいた事  
広めて印象残したんだから！！」

B子「・・・やっぱり何言っても無駄っぽいね。

笑ってるよね、っていう意味もわかんない

みたいだし。

あんた幼いっていうか、正直すぎるっていうか  
人として色々大切なものが欠落してるもん」

A子「けつらくってなに？っていうかあんた

むかつく！まじむかつくんだけど！！

ケンカ売ってるの！！？」

B子「は？ケンカ？売った覚えはないけど。

むかつくの一言で片づけるって楽だよね。

なにも考えないでいいもん。

あ、もしかして私責められてるって思ってる？  
あんた顔赤いしさ、悪いことやってないって  
主張するわりには鼻息荒いし。なんか  
言い訳してる様に見えるよ？

ああ、あれか、今度は  
責められてる私可哀そうっていう感じかあ」

B子「もしあんたが・・・そうだなー

たとえばレイプされたとして  
そのまま監禁とかされちゃって

知らない国に売られて慰み者になって

しまいにはオモチヤ扱いみたく

少しずつ手足もがれて

息絶え絶えに生かされたまま

飽きられて豚の餌にされて

死んだら、

『かわいそー（泣）』って

ブログに書いてあげるよ

ネタにしてあげるよ」

B子「こんな哀れな子が死んじやって

あーあ、かなしい〜涙出そうって、

あんたの存在を広めてあげるよ。

嬉しいでしょ？

うれしいんでしょう？」

A子「好きにすれば？」

B子「好きにするよ？だから、ほら、

さんの事ブログに書くんでしょ？

さつさと書けば？ネタは鮮度が大事でしょ？

ブログの編集画面開いてんじゃない。

ほら、早く書きなよ」

\*\*\*\*\*

A子は結局、さんの事をブログには

書かなかつた。書いたら負けとでも

思ったのかな。わからない。

その代わりかなんなのか

私の悪口がよく書かれるようになったらしい。

あの件以来、A子のブログを全く見ていないから  
友達づてに聞いて、でも

聞いたところでこっちもじゃあブログ立ち上げて

A子の悪口書いてやるうとか、そんな行動力は

全く起きなかった。A子に対しては  
可哀そう、という感情しか湧かなかったのだ。  
幼子、いや、なんかそのへんに居る  
ただの有機物に文句言っても  
無駄な事だと思ってるからか、とにかく  
なんかする気持ちにはならなかった。

C子の件もあつたからか、A子の友達も  
彼女から離れていつてるらしい。  
友達・・・だったのだろうか。

A子もまた、地味と言っていた  
C子のように

「ただ居る」存在としてでしか  
彼女が「友達」と呼んでいた人達に  
思われなかったのかもしれない。  
わからないけれど。  
私もそうだったのかな。

そしてブログの記事も、ただただ  
友達の悪口を書き連ねるだけの  
代物に、やっぱりというか  
私は悪くないと主張しているそうだ。

にしてもひどいよなあ、私。  
有機物って。

あの時、　　さんの話のとき、A子  
怒ってたから

平然じゃなかったから

あれは人間特有の感情だから

人間だったら

考え直す余地があると思うから

それができるのかなと思っただけ

今の彼女を見てると、もう、

無理なのかな。

あのままあの有機物は

一生あの調子で

私って可哀そうと思いな

死んでゆくのかな。

「なんで笑ってるの？」と言った意味を

知らないまま、知ろうとしないまま

朽ち果ててゆくのかな。

私、どうしたいんだろう。

A子になんかまた言いたいのかな？

でももう言う気が起きない。

なにもする気はない。

彼女は私の中で

「人間」じゃなくなってしまった。

感情も湧かない。何も。

でも、なんでだろうか。

涙がとまらないのだ。

あの有機物のため？

私のため？

いったい、誰のため

なんのため

なのか。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n3306i/>

---

A子とB子の会話　そして

2010年10月28日08時22分発行